

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 6 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17344

研究課題名(和文)旧ソ連中央アジアにおける理論と実践を通じた域内連携と比較社会教育学の構築

研究課題名(英文) Study on Regional Cooperation and Discipline of Comparative Social Pedagogy:
Focusing on Theory and Practices in Central Asia

研究代表者

河野 明日香 (Kawano, Asuka)

名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授

研究者番号：10534026

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中央アジアとヨーロッパで文献収集や聞き取り調査等を行った。特に、Social Pedagogyに関する文献を整理し、その特徴や現況の考察を行うと同時に、中央アジアの社会教育概念、理論、実践での社会教育観の定義や整理を行った。理論に関しては、ロシア等ではヨーロッパのSocial Pedagogyの影響が見受けられるが、Social Pedagogyがソ連期を経て中央アジアに影響を与えているかは、さらに検討が必要である。一方で、実践ではヨーロッパのように中央アジアでも教育と福祉を連結する実践が始められており、教育と福祉の理論と実践を踏まえた比較社会教育学の構築の可能性が解明された。

研究成果の概要(英文)：This study has collected materials on Social Pedagogy and conducted interviews at related facilities in Central Asia and EU. The articles on Social Pedagogy have been reviewed, and its characteristics and current situation, in particular, have been examined. In addition, the concept of Social Education has been defined, and the theory and practices on Social Pedagogy in Central Asia have been reviewed. Regarding theory, European Social Pedagogy has an impact on the Social Pedagogy in Russia as well as areas in Central Asia. However, additional researches are needed to confirm the impact of European Social Pedagogy in Central Asia. On the other hand, practices linked to education and welfare were started in Central Asia. Possibilities of constructing Comparative Social Pedagogy Discipline based on theory and practices regarding education and welfare were clarified by this study.

研究分野：社会教育学

キーワード：社会教育 中央アジア

1. 研究開始当初の背景

これまで、科学研究費補助金(特別研究員奨励費)「中央アジアにおける社会開発と地域コミュニティ コミュニティ観と域内教育協力の検討」、科学研究費補助金(若手研究(B))「成人教育における域内連携と国際ネットワークの構築：中央アジアと国際的連帯の検討」等の研究助成をもとに、ソ連解体後の中央アジア諸国における地域社会教育や成人教育、成人教育の国際ネットワークについて研究を進めてきた。これらの研究成果は、既に単著『「教育」する共同体 ウズベキスタンにおける国民形成と地域社会教育』、*Mahalla and its Educational Role* 等に纏めている。

若手研究(B)では、90年代初頭に相次いで独立を果たした旧ソ連・中央アジア諸国(カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン)における成人教育の域内連携と国際ネットワークの構築について、DVV Internationalやウズベキスタン成人教育協会、ASPBAE(アジア・南太平洋成人教育協会)の活動を中心に資料収集や調査を行ってきた。これまでの研究では、旧ソ連圏における成人教育の動向やその実態に迫る研究はほとんど見られなかったが、成人教育における国際的紐帯が強く求められる現在、中央アジア地域における成人教育の実態と域内連携の意義、国際ネットワーク構築のさらなる検討が迫られている。

現在の中央アジアにおいては多様な国際支援が展開され、その支援に対応する形で各国の成人教育協会といった組織や地域学習センター等の施設が整備され、多面的な成人教育事業が実施されている。さらに、国際支援団体を媒介とした成人教育の国際ネットワークが構築されつつあるといった進展が認められる。しかし、それは一国家の枠組みに留まり、中央アジア域内連携といった超国家的な地域共同体レベルの連携・協力までは至っていない。このような結論から、新たに「域内連携を阻むものは何か」という疑問が生まれた。さらに、研究が進むにつれ、中央アジア域内における各々の社会教育概念の隔たりが連携・協力に係る共通意思の形成を阻害しているのではないかと推測されるようになった。

この研究課題に取り組む中で、中央アジア地域における成人教育・社会教育の域内連携に係る共通意思の創出において、中央アジア各国の社会教育概念を吟味することが重要であることが確認され、それとともに中央アジアにおける社会教育概念の特質を考察する上で、中央アジア以外の国々の社会教育概念との比較が不可欠であると認識するに至った。特に、現在中央アジアの社会教育概念に影響を与えているというヨーロッパ諸国の社会教育概念との比較は、現代中央アジアにおける社会教育概念を浮き彫りにする上で欠くことができない。

そこで、これまでの研究の成果と課題を継

承し、さらに発展させるという観点から、中央アジアの社会教育概念、理論、実践の域内比較と、中央アジア地域に多大な影響を及ぼしているとされるヨーロッパ諸国と中央アジア諸国における社会教育概念、理論、実践の国際比較という研究課題を新たに設定した。そして、この研究課題の検討を通し、最終的にディシプリンとしての「比較社会教育学」の理論、研究手法の構築を試みることにした。

2. 研究の目的

既述の研究背景を踏まえ、本研究では、中央アジア諸国の社会教育概念の域内比較と、中央アジア地域に影響を及ぼしているとされるヨーロッパ諸国と中央アジア諸国における社会教育概念の国際比較を通し、社会教育概念の明示と融和を通じた域内連携・国際支援活動の創出の方途を探ることを目的とした。そして、最終的にディシプリンとしての「比較社会教育学」の理論、研究手法の構築を試みた。

3. 研究の方法

研究方法には文献分析と合わせ、聞き取り調査等の手法を採用した。各国の研究動向は文献を検討しながら、調査対象の中央アジア2カ国の社会教育管轄省庁や国際成人教育協議会(ICAE)、アジア・南太平洋成人教育協会(ASPBAE)、DVV等の資料収集を行った。また、中央アジアとヨーロッパの社会教育研究者に対し研究動向や実践についての聞き取り調査を実施した。ヨーロッパと中央アジアの関係機関については、DVV ウズベキスタン事務所やスウェーデンの民衆教育機関、フィンランドのコミュニティ施設、ドイツの青年支援団体や文化センター等で職員に対し聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

研究期間の3年間に於いて、中央アジア域内比較の対象国は、ウズベキスタン、カザフスタンの2カ国とし、中央アジアとヨーロッパの国際比較対象国には、ロシア、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ドイツを取り上げた。第1年度は、研究の視点と方法、枠組みを明確にした上で、各国の概要を把握する調査を実施した。スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ロシアを中心に、社会教育概念、Social Pedagogyの理論に関する資料収集や聞き取り調査、研究交流を進めた。第2年度は、初年度の調査を概括した上で、ウズベキスタンの国際支援団体(DVV等)の具体的事例について調査を実施した。また、カザフスタンの事例についても資料収集を行った。第3年度は最終年度であり、研究の総括を行うとともに、ドイツにおける調査を行った。具体的には、ドイツの関連団体や機関(こどものまち、シュラヒトホフ、JAFKA、生産学校)を訪問し、社会教育士や社会教育

活動、青年支援、Social Pedagogy の理論について調査を実施した。また、本研究の成果について、ウズベキスタンやメキシコ（国際会議）で報告を行うとともに、今後の研究の展開についての検討を行った。

本研究では、特に Social Pedagogy に関する文献を整理し、その特徴や現況の考察を行うと同時に、中央アジアの社会教育概念、理論、実践での社会教育観の定義や整理を行った。理論に関しては、ロシアや中央アジアの一部ではヨーロッパの Social Pedagogy の影響が見受けられ、今後は国際的な Social Pedagogy 理論の構築や研究交流の活発化の可能性がある。しかし、Social Pedagogy がソ連期を経て中央アジアにどのような影響を与えているかは、さらに検討が必要である。ウズベキスタンとカザフスタンでは、社会教育や Social Pedagogy に関連する概念の相違がみられ、政策でも同様の状況がみられる。一方で、実践ではヨーロッパのように中央アジアでも、成人教育実践と社会的支援の融合など、教育と福祉を連結する実践が始められている。本研究により、教育と福祉の理論と実践を踏まえた比較社会教育学の構築の可能性が明らかになったといえる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

河野明日香「中央アジアにおける生涯学習・成人教育とコミュニティ施設 ウズベキスタンのマハツラを事例として」日本公民館学会『日本公民館学会年報』第13号、2016年、87-98頁。

Takeo Matsuda, Asuka Kawano, Lan Xiao, "Social Education in Japan", Social Pedagogy in the World, Vol.27, 2016, pp.253-280. (査読有)

河野明日香「ドイツにおける青年支援 シュラヒトホフ・JAFKA の事例と中央アジア諸国への導入可能性」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)「社会教育・福祉・コミュニティ支援を統合するシステムと理論、専門職形成の比較研究」(研究代表:松田武雄)研究成果報告書・その2『社会教育と福祉とコミュニティ支援の比較研究』、2018年、39-44頁。

〔学会発表〕(計2件)

河野明日香「ウズベキスタンにおけるイスラーム教育 学校と地域社会の観点から」ラウンドテーブル「ポストグローバル化期イスラーム教育の地域展開」日本比較教育学会第52回大会、大阪大学、2016年6月24日(口頭発表、査読無)
Takeo Matsuda, Asuka Kawano, Lithbeth Erikson, Yaka Matsuda, "Comparative Study of Social Education-Work: Sweden,

Uzbekistan and Japan", International Conference Social Pedagogy and Social Education: Bridging traditions and innovations, 22-24th, February, 2018, Universidad Autónoma de Puebla, Puebla, Mexico. (口頭発表、査読有)発表日は2月23日

〔図書〕(計4件)

河野明日香「第11章 中央アジアにおける生涯学習 「継承」と「創造」の観点から」新海英行、松田武雄編著『世界の生涯学習 現状と課題』大学教育出版、2016年、197-213頁。

河野明日香「途上国の教育とコミュニティ」『コミュニティ事典』春風社、2017年、482-483頁。

河野明日香「第10章 教育と国家建設 独立後の教育にみる人材育成」宇山智彦、樋渡雅人編著『現代中央アジア 政治・経済・社会』日本評論社、2018年、231-255頁。

河野明日香「第3部生活・社会 29.教育 新国家建設と個々の自己実現の要」帯谷知可編著『ウズベキスタンを知るための60章』明石書店、2018年、194-200頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

(河野明日香 KAWANO Asuka)

研究者番号：10534026

名古屋大学大学院教育発達科学研究科
准教授

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()